

単元名: Welcome to Japan.～ビデオレター交流で広がる世界～		
氏名: 大崎 遼平	学校名: 天理市立山の辺小学校	
担当教科: 外国語(英語)	実践教科: 外国語(英語)	
時間数: 10時間	対象学年: 6年	人数: 40人
使用教材: 自作スライド・ペルー民芸品・オンライン掲示板		

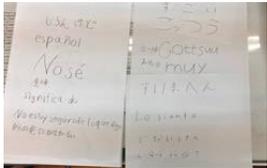
【実施概要】

【1】単元の目標		
他者に配慮しながら、英語や日本語を用いて互いの学校生活について紹介し合い、世界の国や文化に対する興味・関心を広げることができる。		
【2】 単元の評価 規準	(ア) 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルーには、日系文化があることを理解している。 ・既習語句や表現を用いて、学校生活について紹介している。
	(イ) 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルーの生徒により良く学校生活を伝えられるように、工夫して表現している。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる言語や文化をもつ人に配慮しながら、積極的に学校生活を伝えようとするとともに、交流を通して異なる言語や文化があることの良さに気づいている。
【3】 単元設定の理由	<p>本校では、海外の小学生や県内高校、近隣の語学院の留学生との交流を行っている。本学年の児童は、互いの文化紹介中に知っていることや共通するものがあると大きく盛り上がったたり、自分が当たり前だと思っていたことが違ったことに驚いたりして、相手を身近に感じる経験をしてきている。紹介される外国の文化への興味・関心も高い。また、自分たちの英語が伝わったことで英語がコミュニケーションツールとして役立つことを実感し、外国語学習に対して意欲的に、自己有能感を持って取り組んでいる。</p> <p>本単元では、ペルーの文化と日系人の存在を知った後、ペルーの学校(Newton College)の日本語クラスの生徒(中学3・4年生)を相手に、「学校生活」について紹介し合うビデオレター交流を行う。(Newton Collegeは、教師海外研修の訪問先であるペルー日系人協会にて授業者が出会った方の勤務校であり、その方が指導されている日本語クラスで交流相手を探しているとのこと、今回の交流に至った。)相手の日本語が入門レベルであることから、易しい日本語にしたり、スライド資料では漢字を避けてひらがなで表記したりする配慮が必要となる。話す速さや伝え方にも、工夫が求められる。これは、外国語科における目標「他者に配慮して自分の考えや気持ちを伝えようとする態度」を養うことにつながる。</p> <p>一方で、相手の英語力が非常に高いことから、相手が理解しやすいよう英語も加え、双方に外国語学習の機会を保障する。</p> <p>英語の指導においては、明瞭さ、表現の工夫、小学生なりの流暢さの3点を重視する。相手が目の前にいないため、早口になりがちな点をうまく利用しながら、ポイントでより伝わる工夫を考えさせたい。</p> <p>日本語の指導においては、相手の日本語レベルに配慮した伝え方ができるよう、例文を1年生にわかる言葉に変える活動を行い、その際に気を付けた点をあげさせる。また、英語学習で困った経験を想起させ、それを相手の立場に置き換えて考えさせて、「ゆっくり」「わかりやすく」「丁寧な言葉で」「ジェスチャーを交えて」伝える配慮や工夫を児童から出させる。</p>	

まとめとなる第10時では、ペルーで使われる日本語を紹介し、日本文化の広まりと日系文化の影響についてふれることから始める。しかし、世界には数多くの言語があり、その数以上に文化が存在することを、7000という数から気づかせる。ベン図を用いて言語の価値を考え、コメント返信を含めた今回のビデオ交流でどのような感情を抱いたのかを、6つの中から選ばせる。そして、単元を通しての変容をふり返らせ、今後の外国語学習の意欲・動機づけにつなげたい。

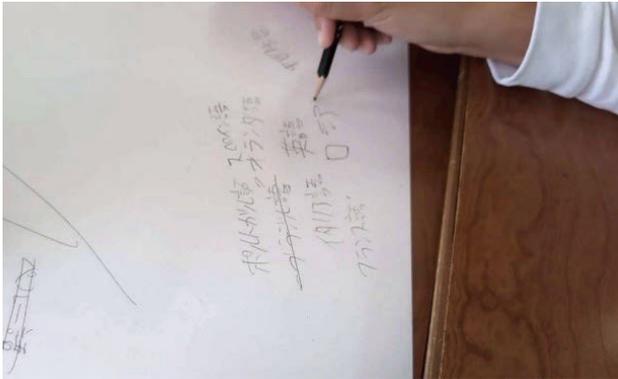
本単元を通して、児童には外国の文化の良さや魅力を受け止めると同時に、違いの中から共通点や類似点を見出したり、自分たちの生活や文化の良さも再認識したりして、児童それぞれの世界観が内外両方に広がる面白さを感じてくれることを期待する。

【4】展開計画(全10時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	ペルーについて知る。 	・JICA海外協力隊経験者から、ペルーの概要や簡単なスペイン語(自己紹介やあいさつ)、文化、現地で行った環境教育活動について教わる。 (ペットボトルキャップを加工して商品化)	・スライド ・イヤリングとミサンガ(現地販売商品)
2	スペイン語にふれるとともに、作品が海外の相手に届く期待感を抱く。	・ペルーに届ける日本語辞典を作るために、ペルーに伝えたい「美しい日本語」「関西弁」のどちらかを選び、インターネットを使って該当するスペイン語を調べて紙に書く。メッセージを添えてもよいこととする。	・タブレット端末 ・白紙 
3	ペルーの文化と日系人の存在を知る。	・授業者がペルーで見てきたことや出会った人についての話を聞く。 ・ペルーで出会った人からのメッセージビデオを見る。(ラ・ビクトリア校日本語教員・ペルー日系人協会職員・JICA海外協力隊員) ・日系人の存在を知る。	・自作スライド ・ボンチョ ・絵本 ・インカコーラ ・チチャモラーダの粉末 ・通貨 ・メッセージビデオ
4 5 6 7 8	ビデオレターを作って学校紹介をする。	・Newton College校(中学3・4年生)に向けて、英語と日本語で自分たちの学校生活について紹介するビデオを作る。 ・テーマごとに数人ずつに分かれる(制服・学校行事・時間割・休み時間・教科・給食・そうじ・委員会活動)	・タブレット端末 ・オンライン掲示板
9	ビデオレターを見て、ペルーのことを知る。 	・ビデオを見て、大まかにどんなことを言っているか掴む。 ・ペルーからのビデオを見て、コメントを書く。(言語は指定しない) ・日本とペルーの文化や学校生活の共通点や類似点に気づく。	・タブレット端末 ・オンライン掲示板
10 本時	交流のまとめをする。	・世界にはたくさんの言語があり、多様な文化があることに気づく。 ・外国語学習の意欲・動機づけをねらう。	・画用紙 ・付箋 ・タブレット端末

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	ペルーで使われている日本語を知る。	食文化…日系料理の広がり (sushi, maki, tempura, tofu, ramen, bento, teriyaki) 生活…日本文化イベントの普及(origami, kimono, bonsai, anime, karaoke) 教育・スポーツ…武道・学校教育での日本語使用 (sensei, undokai, dojo, karate) 社会…日系人の存在 (nikkei)	・自作スライド
展開 (25分)	「もしも、世界にことばが1つだけだったら?」について話し合う。 考えを広げる。 「外国語を学ぶのは必要なことか」について話し合う。	・「○○語」と聞いて思いつく言語を出させる。 約7000の言語があることを知らせる。 ・個人で考える時間をとった後、班でベン図に付箋を貼る。 ・考えを述べる際に、理由も話すよう指示する。 ○外国人と話せて仲良くなれる。 国際交流が今より簡単になる。 旅行で困らない。 外国語を覚えなくていい。 ▲外国語を学ぶことがなくなる。 文化の違いがなくなる。 個性がなくなる。 面白みが減る。 ・話し合いが停滞している班には、問いかけをして意見を引き出す。 ・他の班の内容を見て回らせ、気になった記述に印をつけさせる。 ・2班程度指名する。	・自作スライド ・画用紙 ・付箋
まとめ (10分)	今回の交流を振り返る。	最も強く感じた気持ちを6つの中から選び、振り返りを書かせる。 A.「つながれて嬉しい」 B.「もっと伝えたい」 C.「国・言葉が違ってても伝わる」 D.「世界って広い」 E.「外国語をがんばろう」 F.「その他」	・タブレット端末

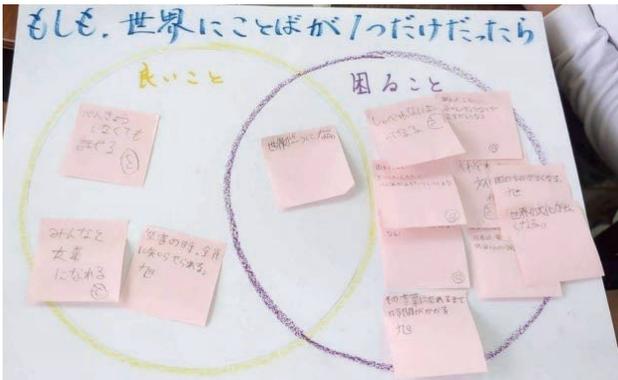
【授業実践の様子】



「〇〇語」と聞いて思いつく言語を出す



ベン図に付箋を貼り、自分の考えを述べる



出た考えに対して別の見方ができないか考える



「AとC」「BとD」など迷うことなく声上がる

【6】本時の振り返り

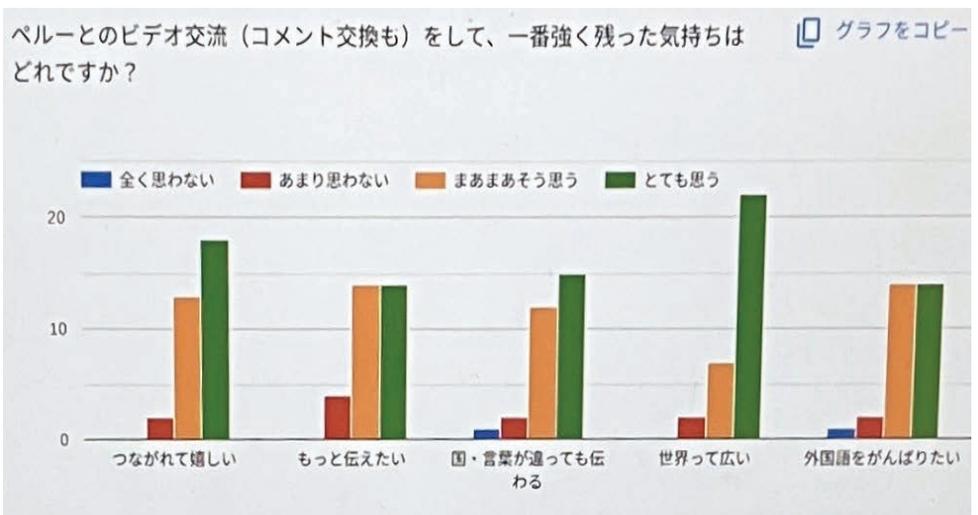
本時案の前半と後半を逆にして児童が感じたことを導入に用い、交流で感じたことから多文化共生への態度、異文化への興味の広がりを養う方がより効果的だったかもしれない。

話し合いの際、「外国語を学ぶことは必要か」という問いに対して、「外国に行くことがなければ必要ない」「外国に行かないとしても、外国人がたくさん日本に来ているから必要」という議論が白熱したが、先の発問で出された

メリット、デメリットと関連付けて考えることができた児童が少なかった。

授業後の振り返りからは、上の資料のような統計がとれた。「つながれて嬉しい」「世界って広い」の2つの「とても思う」が特に大きく伸びており、授業者が感じ取ってほしいことが書かれていた。

次ページの【7】に児童の感想を掲載する。



【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

- ・楽しんで英語がうまくなったと思う。英語で言えることが増えた。
- ・外国と交流することで、外国のことを深く知ることができるし、英語を勉強するとどんないいことがあるかを知ることができるので、いいと思いました。実際に使う時に、わかりやすいように発音を正しくすることとか気をつけたから、外国語がうまくなったと思いました。
- ・ペルーの人とのつながりができた。
- ・最初は英語がちゃんと伝わるのか不安だったし、日本語も伝わるのか不安だったけど、ペルーの人たちに伝わってうれしかった。もっと自由に会話をしてみたい。
- ・世界に言葉が1つだけだったら、災害の時に全員に知らせられる。反対に、日本語じゃなかったらその言葉になれるまでに時間がかかると思った。
- ・世界にことばが1つだったら、それぞれの文化がなくなる。英語やかんこく語の歌やアイドル、アニメがきえたら、個性が少なくなる。でも、世界中どこへ行っても通じるし、共通することで楽しいこともある。
- ・外国語を学ぶことは必要だと思う。みんなと交流できると差別が少なくなり、みんなで分かり合える。
- ・言葉が通じないからおもしろいし、文化がなくなったらその国に行きたいと思わなくなってしまうから、外国語を学ぶことは必要なことだと思う。
- ・言葉の意味を知ることによって深く学べると思うから、外国語を学ぶ必要がある。

【単元を通じ変容した生徒の態度や学習意欲】

- ・本場の英語を聞いて、自分の英語と比べて自分の英語が遅くて悲しくなった。
- ・みんなとふれ合えた気がしてうれしかったです。もっと英語をしゃべれるようになって楽しく会話できるようになりたいです。
- ・外国との交流で、外国語のやる気につながった。
- ・他の国の言語ももっと知りたい。(あいさつ・自己紹介など簡単なスペイン語にふれたことに加えて、交流コメントでスペイン語を調べた児童)
- ・違う国の人とも会話ができるのを知って、外国への興味が強くなりました。
- ・ペルーの人が何を言っているかわからなかったけど、よく聞くと「プール」「フットボール」「カフェテリア」「ジャパニーズクラス」とかの言葉がわかった。また他の国とも交流してみたい。
- ・将来の仕事などに役立つ。外国人とか相手の考えを知れるから、考えが広がると思う。
- ・結構ふれ合えた気がしてうれしかったです。もっと英語をしゃべれるようになって、楽しく会話できるようになりたいです。
- ・返事を見てペルーの人たちとつながれたんだと実感して、英語がんばろうかな?と思うようになった。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

児童にとっては、ペルーは場所も特色も知らない国の1つだった。ビデオをオンライン掲示板にアップしてからは、どんなコメントや紹介が返ってくるのか心待ちにして、授業の度に気にしていた。

(授業後)

- ・ペルーにも制服があることを知った。ペルーや外国への興味が強くなって、もっと知りたくなった。
- ・ペルーの学校は、お金をはらってごはんを食べたりいろんなスポーツをしたりして、私たちの小学校とは違うなと思いました。
- ・世界の学校にワクワク感が持てた。他にも世界の文化の学習をしたいと思った。
- ・言葉が違ってもつながれて、「すごいな」「いいな」と思った。外国に興味を持った。言葉がたくさんあることでつながる体験をできるから、言語はたくさんあっていいと思う。他の国とも交流してみたくなった。

- ・動画やコメントを見て、ペルーにいる人達は、しっかりと日本語を勉強してくれているんだと思った。
- ・はじめペルーと日本はあまりにでないと思っていただけ、ペルーの料理も日本の料理もすこしにしているところがあってびっくりした。(例 セビーチェとちらし寿司)
- ・前まではペルーに限らず他の国にあまり関心がなかったけど、今回のことで関心が強くなった。

【8】自己評価

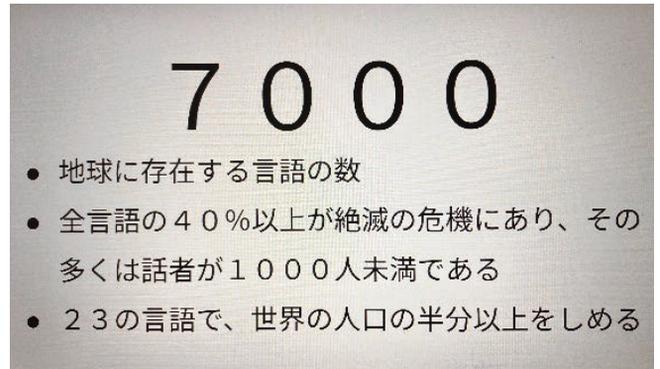
1. 苦労した点	<p>相手側の校内周知や保護者への確認に時間がかかって、ペルー側からの返信がなかなか来ず、こちらから何度連絡しても同様にビデオ交流を諦めかけた。打合せでは10月後半にビデオをアップしてもらうことになっていたが、11月後半になり、実践計画が大きく延びた。ビデオを見て、それに応える返事を送りたかったが、時期も指導時数も厳しくなり、コメントでの返事とした。</p> <p>児童は、英語と易しい日本語の両方で相手に配慮したスライドを作り、2つの言語を使って録画したため、想定よりもビデオ完成までに時間がかかった。</p>
2. 改善点	<p>英語力の差に加え、相手側との年齢差(日本側小学6年に対してペルー側が中3・4年)が大きかったため、話す速度が非常に速く、使用語彙・表現が難解であった。</p> <p>事前に「ゆっくり、簡単な英語で」と伝え、日本側のビデオを先に上げて様子を掴んでもらうようにしていたが、相手は交流が初めての経験で難しかったと思われる。「わかりやすく伝えること」が最優先だと、指導ポイントを共通理解しておく。</p> <p>しかし、スライド画像、日本語や英語の解説や字幕、背景などから大まかに言っていることは想像、理解できることから、すべてわからなければいけないと思わず、「どんな言葉が聞き取れたか」を出させることで十分だと割り切った。</p> <p>今回、「人となり」に着目する実践ではなかったが、日頃の授業の一場面や流行の歌やダンスを撮影してアップすることで、お互いを身近に感じるような交流のしかたもある。学年や言語力が違って、身構えずに挑戦してもらいたい。授業者自身も、今後やってみようと思っている。</p> <p>最後に、双方の学校行事や連休等で予定が合わなかったり、熱意が一致しないことで打合せの返信が滞ったりして計画していた交流が難しくなった場合は、代案を早めに考える必要がある。</p>
3. 成果が出た点	<p>ペルーとの交流を通して児童が新たに世界とのつながりを見出し、異文化理解に対して一層興味が高まったことで、地球市民としての意識を養う機会になった。</p> <p>文化や言語力の違いが大きいことによって、相手の日本語理解度を意識してわかりやすいように紹介の仕方を考え、実践しようとする姿が見られた。毎日一緒にいる同級生には説明や言い換えをしなくても伝わるが、1年生に話す場合を例に出したり、外国語の授業で困った経験を想起させたりして相手の立場や状況を慮る良い機会となった。実際に録画してみると、反応がないことで早口になってしまった班もあるが、今回の経験を今後活かせるだろう。</p> <p>また、ペルー側からの紹介ビデオやコメントに学校紹介以外にも有名な食べ物や地理、気候の紹介があり、授業者から教えるよりも積極的・印象的に知識を得られたように思う。</p> <p>何よりも、日本語を学ぶ人が外国にいることを知り、日本語話者として嬉しく、誇らしく感じる様子が見られた。言語は違って、外国語学習に取り組む仲間がペルーにもいることが、児童の意欲づけになったと言える。</p>
4. 備考	<p>自分が大事にしたいこととペルーで感じたこと、学んだことが重なる部分を考えた時、中心にあったのは世界・異文化への興味を広げたいという願いだった。</p> <p>日本の向こうはどうなっているのだろう。どんな魅力的な人や場所、食べ物があるのだろう。想像するだけでワクワクした気持ちになる。新しいことを知ると、もっと知りたくなる。本単元で児童が抱いた何らかの感情は、もしかしたらペルーに移住・開拓していった当時の人々の気持ちに重なるのではないか。そんなことを思いながら、本実践計画を描いた。協力してくれたNewton College校の先生、日本語クラスの生徒たちに心から感謝したい。</p>

添付資料:

本時に使用したスライド



日系文化やクールジャパン政策の影響で
ペルーで広まった日本語



世界中に存在する言語(推定)

参考資料:

・高校生ことば会議:関西大学 大津由紀雄・竹内理(2023年12月)

・財産戦略推進事務局 クールジャパン戦略:知的財産戦略推進事務局(内閣府)

https://www.cao.go.jp/cool_japan/